

## 指定管理者制度についての考察

08 | 4253 森下光太郎

### 1. 図書館におけるアウトソーシング

図書館のアウトソーシング、図書の選定や目録作成などは、戦後日本図書館協会再建の頃から徐々に普及していったと言われている。その後図書館業務にコンピューターが導入されるようになると、MARC の作成委託や図書の装備委託といった形で、資料組織に関する部分及び遂刊の配架、書架整理など広く委託されている。ば図書館業務や管理のアウトソーシングには次のような形態がある。

- (a) 非常勤職員と派遣職員
- (b) 個別業務委託
- (c) 指定管理者制度
- (d) PFI (Private Finance Initiative)
- (e) 市場化テスト

### 2. 指定管理者制度とは

民間事業者などの団体でも公の施設の管理を行うことができる制度で、2003 年に実施された。現在全国で 70,022 施設が指定管理者で運営しているが、図書館は県立が 2 館、市町村が 144 館となっている。

### 3. 指定管理者における議論

#### (1) 総務省の通知と片山総務大臣会見

片山総務大臣は指定管理者制度が「コストカットのツール」として使われてきたこと、「本来指定管理になじまないような施設」にまでこの制度が使われてしまっていること、アウトソーシングを進めたことによって「官製ワーキングプアを大量に作ってしまった」と語った (2011/1/5)。

#### (2) 日本図書館協会の意見

社団法人日本図書館協会は、公立図書館への指定管理者制度の導入について、一貫して批判的もしくは慎重な態度をとっている。

#### (3) 文部科学大臣の答弁

渡海紀三朗文部科学大臣は、「公立図書館への指定管理者制度の導入は長期的視野に立った運営が難しくなり、図書館になじまない、職員の研修機会の確保や後継者の育成等の機会が難しくなる、やっぱりなじまない」と答弁した (2008/6/3)。

### 3. 実地調査

平成 18 年度から指定管理者制度を導入している、「常滑市立図書館」の大岡館長にお話し伺と共に実地調査を行った（訪問日 2011 年 11 月 29 日）。

#### (1) 図書館の印象

- ・歴史とともに老朽化が見え隠れしている図書館の様に感じた。エレベーターやトイレなども建物の構造からバリアフリー化を進められていない様子
- ・館内のレイアウトや、配架に力を入れている様子は十分に見受けられた

#### (2) 指定管理者についての評価

- ・指定管理者制度を導入して、大幅な施設改修などは行っておらず一見しても以前と変わらず運営しているように思える
- ・目的としての「住民へサービス向上」という目的よりは、純粋な「コスト削減」という目的で制度を取り入れたと見てとれた
- ・「図書館ネットワークの大幅なシステム変更」や「出前で行うイベント」といった予算内で、今ある施設出来る事に積極的に行っている努力が見受けられた

#### (3) 問題点と課題

- ・「予算削減」を前提に制度導入が見受けられている為、成果が顕著に表れていない事
- ・利用者の制度に対する知名度や認知度も低い為、制度導入後の成果を評価されにくい
- ・空調設備など大規模な修繕が必要な設備が故障した際には市民へ安定したサービスの供給が出来なくなる場合もある事
- ・館長や司書だけではなく、スタッフ一人ひとりの創意工夫や個性、また自己啓発に臨む姿勢が必要

### 4. 考察

図書館における指定管理者制度の風当たりは強く、選定の際の不透明さや、指定期間の短さや雇用問題など様々な問題点が未解決のままである。自治体や図書館はモニタリング評価や、事業の透明性を高める事、コスト削減による負の影響と向き合いながら指定の継続を行い、長期的な視点で、図書館運営だけではなく次世代の図書館を担う人材を育てていく必要がある。